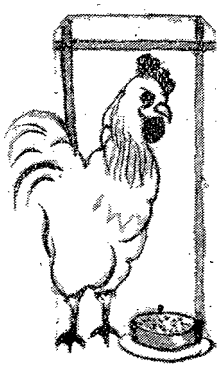

今月のリンゴ園の作業

二月ともなれば、リンゴ園では、堅雪を利用し天気の良い日は、剪定作業が始まる。

二月とはいえ、まだ寒い日はあるが、暖い日は、暖い日ざしを身体一ぱいに、あびながら今年の収穫を夢見つつ、はさみの音も軽やかに響かせながら剪定を行う時は、大変楽しいものである。

次に剪定について簡単に説明しよう。

剪定には、間引剪定と切返（短截）剪定の方法がある。間引剪定とは、枝の大小を問わず不要な枝を剪去する方法をいい、短截とは、新梢を適当に切りつめる方法で、実際においては、この両者を適当に組合せて行っているが、リンゴにおいては、間引きを主とし短截を従とした方法が現在用いられている。

剪定論を記述すると非常に長くなり、しかも現場での状況がわからないので複雑になりすぎるので基本事項についてのみ説明しようと思う。

若木の剪定

若木を剪定する際には、将来への樹形を定めながら、その方向に向つて剪定を行う。

現在のところリンゴの樹形は、古来よりの経験に照らし、いわゆる綜合半円形仕立であつて和梨に見られるような人工的な仕立てではない。栽植した年は、三尺位のところで切りつめ、次年には、主幹の延長枝即ち心となる枝を一・五尺～二尺位で切りつめる。その他の枝は、心より長目とする。大体四～五年位たつたら主枝の候補枝をそろそろ選定する。第一段の主枝は、多雪、少雪地帯等により異なるが、雪の多い地方は、高目に、地上三～四尺、少ない地方では、二尺五寸程度が適当である。しかし将来耕耘に何を使用するかによつても左右される。次に主枝としての条件は、その分岐角度が四十五度前後が望ましい。これは鋭角にすぎると、非常にさけやすく。又余り鈍角であれば、下衰しやすいからで有る。次に主枝の本数であるが、三～四本位が良い。そうして間隔を一尺五寸～二尺程度はなし車枝をなる事をさけ、重なり合う事なく主枝候補枝を定め、七～八年目に主枝を選定する。次に心抜きであるが、何時までも心を立ておくと、強勢になり切角の主枝も衰弱して来る故、十二～三年目頃に心を除く必要が生じてくる。これも一度に抜かず順次心の勢力を弱めつつ抜き去る。若木の時代は、余り細かいところにこだわる事なく主枝候補枝に邪魔になるものや鋭角にすぎるもの、余り勢のはげしいものを除去する以外は、出来るだけ残し樹を早く大きくならしめる様心掛け、共枝、車枝の発生にならぬように注意すべきである。

主枝候補枝は、出来るだけ真直に伸ばすようにする。先が下り気味になつたら枝先の小枝を除却し、又逆の場合には、直立枝を利用して牽制してその勢力を押えるようにする。

さてだんだん結実して樹形が完成した後は、剪定方法も、更新剪定を主体にして行う。更新剪定とは、一口にいえば最も衰下し日陰になつた枝を整理していくと思えば良い。成木の剪定は、結果した枝を間引き常に新しい結果枝を生ぜしめつつ枝の更新をはかるのである。大体において枝が衰弱してくると、極性により枝の屈曲部より新しい枝が発生している故、この枝を利用する。

又心を抜き去つた後の空間は、内行枝等を利用して結果部を増大せしめると共に、日焼等を防ぐ。又枝の配置も立体的に考え前後左右より一定の角度を以て枝を出さしめ、且つ重なり合う事のないようにする。又方向の誤つた枝でも、利用出来る空間があれば、大いに利用すべきで、日光の透射と通風をはかりつつ剪定すべき枝をえらぶ事である。樹齢が古くなるに従い、結実作用が旺盛になり樹勢は、弱ってくる。従つて剪定の強度も強くし、衰弱枝を切り去ると共に、結果母枝を間引き、過剰の花芽を除き樹勢の維持をはかると共に木を若返らせるようにする。

剪定の強度は、土壌の肥沃とも関係あり又樹齢と共に変化する。島博士は「樹齢に応じてその強度を増すべし」といわれているが、又樹勢に応じて加減し強勢の場合は弱、弱い場合は強くといわれている。剪定の順序は、大枝の間引きより始め漸次中、小枝に及ぶべきものであつて、特に混り合つた枝の場合は、小枝で整理する事なく大枝にて整理すべきである。又大きな幹を除去する際には、あらかじめ計画を立て、徐々に弱らせつつ、その空間部を埋めるべき枝の伸長を促しながら除去するようにする。

次に二、三注意すべき点を述べると、

一　直立枝は剪去する。

二　下衰のはげしい枝は剪去する。

三　強過ぎる枝弱すぎる枝は除去する。

四　品種の特性により、例えば紅玉、デリシャスは上向きの枝を残し、国光、旭等はこの反対に下向きの枝を残す。

五　方向の誤れる枝は除去する。しかし利用する空間のある時には利用する。

六　密生する新梢は整理する。

七　古い結果枝群及び枝の腹面に生じた結果枝は病害虫の巣となる故除去する。

八　枝の更新は下垂枝の間引により行う。

以上簡単に剪定の方法を述べたが、実際にあたつては、自己の園の状態、樹勢等を考慮に入れて、最も自己の園に適した方法にて剪定を行う事が大切で有る。

本年も青森県は豊作という予想である。樹勢の維持のため剪定も摘果の一つの作業を兼ねているので充分注意して実施される事が大切である。

この作業の際、腐爛病の発生部や、ウドンコ病の被害部を発見したら適切な手段をこうずる事が必要である。